

平成 17 年 12 月 19 日

2 号機の主復水器における導電率の上昇について

当所 2 号機は定格出力で運転中のところ、平成 17 年 12 月 19 日午前 5 時 46 分頃から、3 台ある主復水器*¹のうち 1 台の水室*²（B 2）内の導電率*³が上昇する事象が認められました。

その後、主復水器内への海水の漏れ込みを防止する処置により、当該主復水器内の導電率は通常値に復帰しておりますが、今後も導電率の上昇が予想されることから、本日午前 10 時より監視強化*⁴を図ることといたしました。

<参考>

当該事象は、復水器細管からの僅かな海水の漏れ込みがあることを示しているものですが、水は「復水脱塩装置*⁵」により塩分が除去された後、原子炉へ送られており、また、現在の海水の混入量は、復水脱塩装置の処理能力よりも十分低いものであることから、直ちに原子炉への影響が生じるものではありません。

以 上

* 1 : 主復水器

タービンを回した蒸気を海水により冷却し水に戻す機器。

* 2 : 水室

1 台の主復水器は 2 つの水室を有している。

* 3 : 導電率

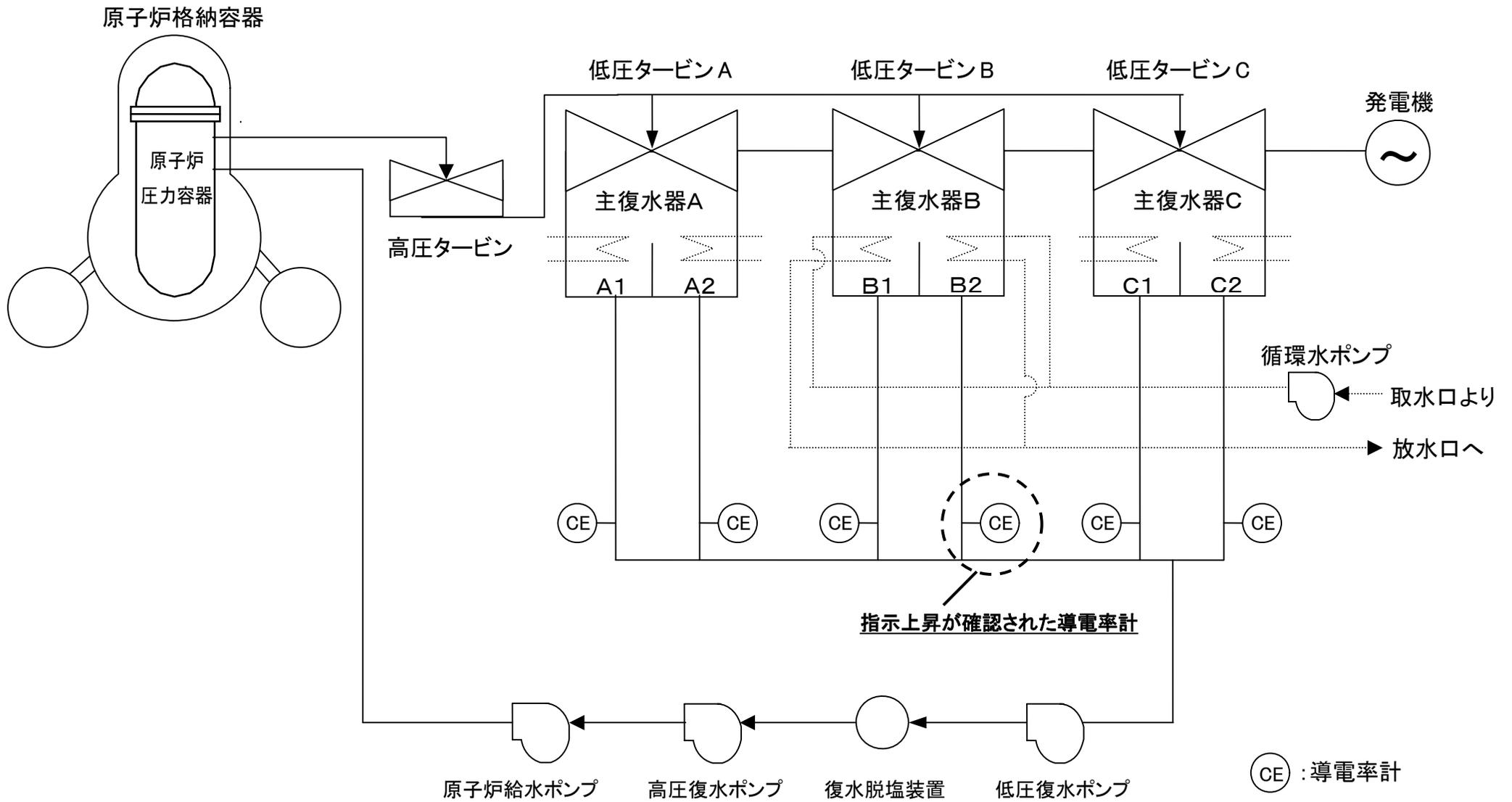
電気の流れ易さの指標であり、水分中に塩分等が多いと電気が流れやすくなり、数値が高くなる。復水器の導電率測定の主な目的は、海水の漏れ込みの早期検知。

* 4 : 監視強化

従来は 1 日 3 回、導電率のデータの採取を行っていたが、今後はこれに加え、1 時間に 1 回、導電率データ（記録計）の確認を行うとともに、導電率に有意な上昇が確認された場合には、水質分析と関連パラメータのデータ採取を行う。

* 5 : 復水脱塩装置

原子炉給水中の不純物を除去する他、万一、復水器内に海水が漏れ込んだ場合に塩分を除去する装置。



系統概略図